

日本子ども健康科学会☆第13回テーマ別研究会 「研究のありかた」

日本禁煙科学会 共催

日時 2015年12月19日(土) 12:55~16:20
場所 跡見学園女子大学 文京キャンパス2号館 4階 M2401教室
(東京メトロ丸の内線 茗荷谷徒歩2分)

<http://www.atomi.ac.jp/univ/about/campus/access.html>

参加費 会員:1000円 学生:500円

非会員:6000円

(ご入会の場合は 内5000円を本年度年会費とさせていただきます)

申込み・お問合せ:info@jshsc.jp

ご所属、氏名、職種、会員・非会員の別ご記入の上お申し込みください。



<プログラム>

開会のことば

12:55~13:00

横田 雅史 理事長(帝京平成大学現代ライフ学部)

「研究入門:疫学研究を中心に」

13:00~14:30

中山 健夫(京都大学大学院医学研究科健康情報学分野)

休憩

14:30~14:40

「質的研究とミクスドメソッド」

14:40~15:25

宮崎貴久子(京都大学大学院医学研究科健康情報学分野)

「公正な研究活動」

15:25~16:10

宮崎貴久子(京都大学大学院医学研究科健康情報学分野)

質疑応答

16:10~16:20

閉会のことば

16:20~16:25

高橋 裕子 副理事長(奈良女子大学健康管理センター)

「研究入門:疫学研究を中心に」中山健夫先生からのメッセージ

人間を対象とした研究は、大きく量的研究と質的研究に分かれます。量的研究の基本的な考え方となるのが疫学です。疫学は用語が多くて難しい、統計が分からなくていやだ、と感じられる方も多いかもかもしれません。しかし、いくつかの要点が分かれば、疫学を学ぶハードルはぐっと下がります。講演では、身近な健康・医療の例を通して、疫学の基本的な考え方を紹介し、どのようにしたら実際の研究に応用していけるかお話を予定しています。

「質的研究とミクスドメソッド」「公正な研究活動」宮崎貴久子先生からのメッセージ

質的研究は、数量化できないデータを扱う研究方法です。主な分析方法をご紹介します。また、質的研究と量的研究の混合法として、ミクスドメソッドがあります。これは、単に量と質の研究結果を合わせればよいものではありませんので、説明させていただきます。

公正な研究活動は、研究者として当然と思われるかもしれませんが、何が不正となるのかを知らなければ、注意もできません。出版倫理も含めて研究公正の概要をお話する予定です。

日本子ども健康科学会☆第13回テーマ別研究会
「研究のありかた」日本禁煙科学会 共催
2015年12月19日(土) 跡見学園女子大学文京キャンパス

講師ご略歴



京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
ベストティーチャー賞 に輝く！！

中山 健夫 (なかやま たけお) 先生

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授

1987年 東京医科歯科大学医学部卒。内科研修後、東京医科歯科大学難治疾患研究所疫学部門 助手、米国UCLAフェロー、国立がんセンター研究所がん情報研究部 室長を経て京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻助教授、2006年～同教授(健康情報学)、2010年～同副専攻長、2014年～医師のための臨床研究遠隔学習プログラム”MCR-Extensionコース”(文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム) 責任者

2005年 日本疫学会奨励賞 2012年 第1回 社会健康医学系専攻ベストティーチャー賞

[学会・行政委員等]

日本疫学会・日本薬剤疫学会・日本禁煙科学会・日本子ども健康科学会等の理事、日本ヘルスコミュニケーション学会世話人、日本神経学会・消化器病学会・褥瘡学会・内視鏡外科学会・日本緩和医療学会・核酸代謝学会等の診療ガイドライン作成委員・統括委員、公益財団法人日本医療機能評価機構Minds委員・診療ガイドライン評価専門部会座長、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA) 専門委員、東京大学医学教育国際協力研究センター客員研究員、他
一般社団法人ヘルスケア・データサイエンス研究所(RIHDS)理事、NPO法人日本メディカルライター協会副理事長、NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン副理事長、NPO法人日本インターネット医療協議会理事、NPO法人EBH推進協議会理事、NPO法人医療ネットワーク支援センター理事、医療ビッグデータコンソーシアム代表世話人、他

[主な著書]

EBMを用いた診療ガイドライン:作成・活用ガイド(金原出版)、健康・医療の情報を読み解く:健康情報学への招待(第2版)(丸善出版)、ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社)、臨床研究と疫学研究のための国際ルール集(ライフサイエンス出版)、トムラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド(シナジー)、京大医学部の最先端授業:「合理的思考」の教科書(すばる舎)、最悪に備えよー医薬品および他の医療関連危機を予測し回避または管理する(じほう)、健康情報コミュニケーション:エビデンスに基づく健康・医療に関する指針(丸善出版)、他

宮崎貴久子(みやざき きくこ)先生

1969年 雙葉高等学校卒業 1972-74年 日本フランス語フランス文学会 書記 1973年 白百合女子大学文学部卒業

1975-76年 フランス、フランシュコンテ大学文学部 1976-81年 慶応義塾大学経済学部(フランス語教室) 助手

(子育てのため専業主婦)

1993-99年 藤沢市教育委員会青少年相談センター 相談員 2000年 東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科 入学

2000-05年 横浜国立大学附属市民総合医療センター総合内科にて、心理カウンセラー研修

2006年 東洋英和女学院大学人間科学研究科 博士後期課程修了

2006-12年 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 研究員

2012-15年 同 助教 2015年- 同 非常勤講師

受賞

2005年 国際QOL学会(ISOQOL) 新人賞

2015年 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 ベストティーチャー賞

所属学会・研究会

International Society for Quality of Life Research (ISOQOL)、Guidelines International Network (G-I-N)、日本疫学会、日本公衆衛生学会、日本心理臨床学会、日本行動計量学会、日本緩和医療学会、日本サイコソロジー学会、M-GTA研究会、QOL/PRO研究会ほか